

紀の川市行財政改革推進委員会会議概要

日時 令和元年 6 月 4 日（火）13:30－15:00

会場 紀の川市役所 2 階市民協働スペース

出席者 仁藤会長／箕輪委員／林委員／恩賀委員／野村委員／折居委員／坂口委員

事務局 角企画経営課長／杉本人事課長／矢田公共施設マネジメント課長／横山財務課長

児玉企画経営課班長／中川人事課班長／速水財務課班長／瀧本公共施設マネジメント課主任

片山人事課主任／西川企画経営課主任

開会

挨拶 角課長

委員紹介

資料確認

議題 1 平成 30 年度行財政改革推進計画の進捗状況について

【企画経営課長、人事課長、公共施設マネジメント課長、財務課長から順次説明】

（企画経営部会）（人事部会）の進捗状況について

野村委員：民間企業では目標と言えは数字が出てくるが、各推進計画の中で数字が出てくるのは人事課の仕事にやりがいを感じている職員の割合の部分だけである。数字を出していないのは意図的なものか。何かを投資して導入したことで、どれだけ合理化されたかを数字で検証するとより分かりやすいのでは。

角 課長：システムを導入する以前に業務にかけていた時間を把握していないので難しい。

野村委員：業務日報等を基準にして、何パーセント減らしたいというような目標値設定をするほうがよい。

西川主任：行政評価制度では数値目標によって目標管理をしている。以前の行革集中改革プランでは数値で管理をしていたが、金額では表しにくい目標もあるため現在はこのような形にしている。

野村委員：市民アンケートをもとに数値化し改善していくのがいいやり方では。そういう数字を載せていったほうがよい。

恩賀委員：数字は誰が見ても分かりやすい。事前に 2,3 回読んだが分かりにくかった。数字で出てきたほうが分かりやすい。

野村委員：やりがいを感じている職員が 0.2 ポイント改善したということだが、紀の川市の職員は今何人いるのか。

杉本課長：547 人です。

野村委員：547 人に対し 0.2 ポイントって何人にあたるか。

杉本課長：1 人か 2 人です。

野村委員：ということは、これだけたくさんの研修をやっても1人、2人しか上がらなかったということ。
はたしてそれで成果が出たと言えるのか。

仁藤会長：PDCAは重要な項目として上がっている。数的目標にとらわれてもいけないが、説明のために必要。

箕輪委員：数字で表してくれたら分かりやすいが、数字で表しにくい部分もある。

野村委員：スマホ決済の件数は把握できるか。

角 課長：できます。

野村委員：それを時系列的にとっていければ、目標設定をしやすいのではと思います。

恩賀委員：40%の職員が仕事にやり方を感じていないと言うのは大きい。

杉本課長：選択肢としてどちらでもないが含まれているものもあるが、目標としては100%を目指していきたい。

恩賀委員：市民としては100%にしてほしい。

仁藤委員：合併してから14年。旧町から集まった人と新採用の人で意識が変わっている。以前は、旧町間の調整があり、職員が切磋琢磨する場面が多かった。今は過去のことを知らずに新市政の職員になっているので、紀の川市職員の教育をもうちょっと検討しなければならない。

箕輪委員：逆に旧町の意識がなくなったというのはいいいことでもあるのでは。

仁藤会長：なくなっていくのはいいいことだが、価値観の相違がある。

（施設部会）の進捗状況について

仁藤会長：図書館も統合したし、粉河保育所も統合したしずいぶん進んでいる。

矢田課長：H28年に公共施設総合管理計画で延べ床面積を35%減らしましょうということになっているが、それも3年かけて見直しをしていきたい。

箕輪委員：これから施設の耐用年数も過ぎていくなかでどういう風にしていくか。整理整頓していく時代である。英断していかなければならない。

（財務課）の進捗状況について

野村委員：補助金の整理合理化というところで、統一的な補助基準を改定するとあって、補助金の改定は行いませんでしたとなっているが、要はどういうことか。

横山課長：合併後一定の補助基準というのを各課で決めてきたが、全庁的には課によってばらつきがあった。それを踏襲していくのが当たり前なので改定にいたらなかった。今までは（例えば）A団体には8万円（一定額）をお渡しするという形だったが、事業費補助という考え方にもっていきたいということで、補助金調書を提出してもらったなかで一定の補助基準が各課で浸透しつつあるのかなという印象だった。今までは、完全には踏襲できていなかったのを改めた。

箕輪委員：補助団体については、命の綱である補助金なので、基準をきっちり決めて、なぜ減るのかとういのをきっちり示していただきたい。財政状況もわかっているのに同じ状況で出すのは難しいと思うが。

横山課長：減るだけではなく増えてもいいと思っている。市として賛同できる内容であれば、減るかも

分からないが増えるかも知れない。

箕輪委員：いくらいるのか、いくら足りないのかという考えで補助金を出していくのか。

横山課長：赤字補填でなく、補助金と言うのは市が直接やらなければいけないことについて、団体で行政の一部をやってもらっている。対象によって率は違うが、その精度をあげていきたい。

野村委員：紀の川市の補助金はこうあるべきと言う基準を、市民に説明する機会はあるのか。

横山課長：できていない。

野村委員：それをする必要がある。赤字補填の補助金は今の時代にあってはならない。ぜひ、1，2月くらいに補助金申請をする団体を集めて、どういうふうに補助金を分配するか一律に説明する機会が必要。

仁藤会長：それはぜひ必要。市の補助金の方向性を明確にしてそれに沿って申請をしてもらわないと無駄遣いになる。

恩賀委員：団体の事務局を市の職員がやっているのも非常に難しいと思う。

野村委員：そこは策をとらないと脱皮できない、改定は行いませんでした、で終わってしまう。

横山課長：団体の事務局をほぼ市がやっている団体もありが、団体でやっているところもある。本来そうあるべき。団体の負担と自立を同時に考えていかなければならない。来年の予算編成でも、かならず事業費補助にやってもらうよう周知していく。

野村委員：やらなければそのままなので、努力をし続けることが必要。昔からのしがらみは時間とともになくなる。

仁藤委員：十分検討して、補助金のあり方、分配方法など対策を立ててください。

折居委員：自治連絡協議会は色んな補助金があるが、ボランティア的なところが大きい。数値化していくと、労働に対する単価なので追いついてこない。

横山課長：団体の性質にもよるので協議していきたい。

議題2 令和元年度行財政改革推進計画について

【企画経営課長、人事課長、公共施設マネジメント課長、財務課長から順次説明】

仁藤会長：今日の議論を踏まえ、明確な数値目標を掲げて進めていってほしい。

恩賀委員：KOKO 塾について、取り組み方をうまく進めてほしい。

議題5 意見交換

恩賀委員：施設使用料の減免について、粉河祭保存会は、近くに公共的な使用できる所がないので、減免して使わせてもらっているが、基準を明確にはしてほしいが、考慮もしてほしい。

箕輪委員：財政状況もよく分かるが、減免の見直しは、基準をきっちり決めてやってほしい。

坂口委員：仕事にやりがいを感じている人が60%。紀の川市はいろんな面で恵まれているので、自信をもって数字がアップするように誇りを持っていただきたい。

折居委員：超過勤務の縮減策で、推進項目にもあるが、超過勤務はどのように把握しているか。年次有給休暇についても、とれているのかとれていないのか。

杉本課長：全体で49,294時間、ひとりあたり（管理職を除く）134時間ぐらいです。

折居委員：平均としては告示をクリアしているということだが、上限はどれぐらいですか。

杉本課長：災害もあり、100 時間を超える場合もある。なかなかうまく減っていない。職場巡視や、部長会での改善報告、水曜日のノー残業デイなどやっているがうまくいっていない。

折居委員：80 時間を超えてしまうと過労死ラインを超えてくる。80 時間を超える手前で、画面に赤色で示すなどできないか。

杉本課長：部長会での報告も毎月やっていると慣れてしまうので検討はしている。

仁藤会長：働きやすい環境を作ってください。

仁藤会長：ご意見を会長と事務局で取りまとめ、後日、郵送により委員各人に内容確認いただく旨を説明し、了承。

その後、本会より市長に対して、提言書を提出する旨を確認。

議長解任

閉会